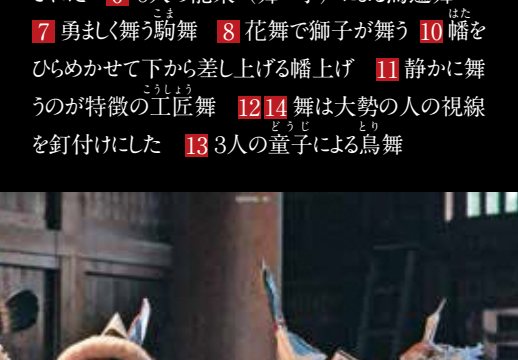




1 面を着け太刀を片手に舞う五大尊舞 2 本舞の前に披露される神子舞 3 日本各地の中でも最古級の田楽舞 4 小豆沢の青年によって奉納される初押し 5 9 舞は太鼓や笛の音に合わせて奉納された 6 6人の能衆（舞い手）による鳥遍舞 7 勇ましく舞う駒舞 8 花舞で獅子が舞う 10 幡をひらめかせて下から差し上げる幡上げ 11 静かに舞うのが特徴の工匠舞 12 14 舞は大勢の人の視線を釘付けにした 13 3人の童子による鳥舞



国の重要無形民俗文化財でユネスコ無形文化遺産にも登録されている市の伝統芸能「大日堂舞楽」が1月2日、大日霊貴神社に奉納されました。4年ぶりに来場制限が解除された今年は、参拝客などカメラで撮影しようとする多くの人が、厳かな神事の舞に見入っていました。

【大日堂舞楽】

起源は養老2(718)年。天皇の勅令で大日堂(大日霊貴神社)が再建された際に、都から下向した楽人が舞った祝賀の舞楽が里人に伝えられたものとされている。毎年、大里・小豆沢・長嶺・谷内の4集落の能衆によって、国土の平安・五穀豊穡・無病息災などの祈りを込めて奉納される。昭和51年に国の重要無形民俗文化財に指定され、平成21年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。

